

二〇一三年二月二日

おしやれして小春の街へ車椅子
ふる里は落人の村ゆず熟るる
小春日の堀端に画架並びをり
穴窯の柞紅葉に閉さるる

菜々

よう子

せいじ

雅流

二〇一三年二月二日

白壁をカンバスとして蔦紅葉
豪華船島影めける靄の沖
相聞の歌碑を離れず冬の蝶
大吊橋足下は深き紅葉谷

満天

なつき

菜々

ともえ

二〇一三年二月二〇日

参道の右も左も冬菜畑
浮き雲や土手の並木の冬紅葉
レストラン飾る真っ赤な唐辛子
落葉径足裏にやはし城址訪ふ
張替し障子明りに愛書読む

菜々

あさこ

満天

はく子

三刀

二〇一三年二月一九日

円陣を解きて水脈引く鴨の陣
屋根の鳩横一列に日向ぼこ

せいじ

よし子

二〇一三年二月一八日

車椅子多し小春の遊歩径
飛行雲小春の空を二タ分けす
賓頭廬を撫でて一願木の葉髪
一水に沿ひて小春の山路行く

あさこ

せいじ

宏虎

百合

二〇一三年二月一七日

庭の柚子ほめれば一つお土産に
立ちがたし日向ぼこりのお尻に根
な滑りそ落葉に埋もる男坂
心字池埋め尽くしたる散紅葉
京なれや土間に居座る酢茎桶
鎮守社は老いの会所や里小春
吊し柿二階の窓を塞ぎけり

有香

あさこ

菜々

菜々

つくし

雅流

こすもす

二〇一三年二月一六日

屋根職人小春の空をひよいひよいと
絡む日の木々の輝く冬の晴
小春の日燦と裸婦像抱擁す
忠魂碑寧かれとかつ紅葉散る

きづな

百合

三刀

菜々

毎日句会みのる選・二〇一三年二月二八日